

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

サーキュラー・イエロープロジェクトの現状 ひまわりの種を収穫、油しぼりへ！

サーキュラー・イエロープロジェクト
プロジェクトリーダー 萩原 達也

中田地区経営委員会のプロジェクトとして位置づけられた「サーキュラー・イエロープロジェクト」は様々な皆さんの協力を得て、立場地区センター裏の場所で種まきをし、およそ 1500 本のひまわりが8月初旬には満開を迎えました。中田地域の小中学校や幼稚園、保育園等のご協力により蒔かれた種も芽を出し、黄色に彩られた景観が少しずつ広がりました。今年の 8 月、豪雨に見舞われた地域も多かったですが、泉区は雨が少なく、水やりに汗を流してくださった皆様には本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。今ひまわりは満開を過ぎて、それぞれの場所で種が熟するのを待っています。今月末くらいには収穫となり、乾燥を経て、搾油されます。順調にいけば JAXA に初めて油が提供される日もそう遠くはないでしょう。



【6年生が育てたひまわり＝中田小学校で】

■

昨年秋に先行して試験的に蒔いた菜の花はおよそ 300 坪で 80Kg 程度の菜種の収穫となり、8 月に開催した搾油のワークショップでは参加者は興味津々で搾油の様子に見入っていました。菜種油を使ったクッキーも製造し、自然な風味と香ばしさに好評をいただきました。菜種から搾られる油は種の重さの 20%程度で、搾油には大変な力が必要です。人力で油を搾る大変さを実感しました。人為を超えた自然を相手に、植物を育て、それを様々な加工し、食物を確保し、命をつないできた先達の連綿と続いてきた営みを思うと気が遠くなります。その強靱さに頭が下がります。利便性と合理性という枠組みにどっぷりと浸り生きている現代人が失ったものは、思いのほか大きいのかもしれません。

このプロジェクトはひまわりと菜の花による景観形成と搾油の取組みともうひとつ、廃食油の回収とその活用という二つから成っています。廃食油の回収については、回収作業の一部をプロジェクトメンバーの事業所である共働舎で担っているところで、今後、地域の方々にご協力をお願いする準備を進めている段階です。技術の進展により廃食油が有効な資源として着目され、市場価値を有するようになってきています。透明性が担保される仕組みづくりを横浜市地球温暖化対策推進協

議会と整備中です。

■

始まったばかりのこのプロジェクトは見通せないことも多く、課題もたくさんあります。循環型経済や共生社会の実現がこの取組みで本当にできるのかという疑問があることも承知しています。だからといって、各所で起きている天候不順や災害をまえに今のままでいいのかという思いが拭えずにずっとあることもまた事実です。今は先達の粘り強さに思いを馳せながら焦らずに取組みを重ねていきたいと思います。



【楽しんで子どもたちが菜種の油をしぼったワークショップ＝共働舎で】

思い出のサバンナの動物たち

街の写真家 森岡武雄さん（84）

中田南

踊場ケアプラザ 3 階廊下の展示コーナーに、ちょっと目を引く動物の写真が飾られている。シマウマ、ヌー、ペリカン、ヒョウなど。一見してサバンナの野生動物たちと分かる。大自然の中で生き生きとした動物の姿、迫力ある写真の構図に思わずうっとり。これを撮ったカメラマンに会って話を聞いてみた。

カメラ歴 60 年のベテラン森岡さん。今回の件についてこんな話をしてくれた。「動物好きな私は、かねてから大自然の中で自由に生きている野生動物たちの姿に一度は接してみたいと思っていた。そのチャンスが待望のアフリカ大地、ケニア行きだったのです。現地に行ってみると感動の連続で動物の動きに気を取られシャッターを押すのを忘れることしばしば。感想を一口で言うとアフリカは大変で、スゴイ所。毎日が感動の連続。出来ればまた行きたい」。話の合間に感動という言葉を何度聞いただろう。それほど森岡さんにとって撮影ツアーは生涯、最高の感動そのものだったのだろう。

森岡さんとお会いした 8 月 21 日。早速見せて頂いたのが 3 冊の写真アルバムだった。タイトル「サバンナの動物写真展」と「野生の王国ケニア紀行写真集」、同名の「カレンダー」（2009 年度）。アルバムをめくり最初一枚の下に撮影に行った期日があった。2008・8・29～9・13。ということは平成 20 年、森岡さんが 60 代の頃になる。その時の思い出が今よみがえり、改めて私たちに素晴らしいケニアの動物と対面させてくれた森岡さんに感謝したい。

ツアーの 1 日のスケジュールは朝 6 時出発。サファリカーに 4～5 人が乗り込む。そのうちの 1 人が指導員兼カメラマンで、いろいろ注意してくれたり動物の特徴や写真の撮り方など教示してくれる。最初の注意は車から絶対降りないこと。降りたら最後、動物に食われることを覚悟。動物との間に一定区間あれば襲われることはない。8 時朝食。パン、果物、飲み物など食べきれないほど出される。あとはシャッターチャンスを見つけ撮りまくるだけ。午後 6 時、帰途へ。ロッジといっても日本でいう一流ホテル

並みで食べ物は豪華。普通の観光客や撮影ツアーで込み合っている。感動したのはヌーの大群が一斉に河を渡る場面やキリン、象、ライオンなど親子の愛情シーン、サバンナの夕日が沈む光景でライオンなどのシルエットは本当に美しい。森岡さんは淡路島（兵庫県）出身、20 代のとき横浜に。栄区の住友電工に就職、れっきとした技術屋さんである。写真が好きで 20 代からやっていたが本格的には 40 歳代から。現在フォトクラブ「しゃらく」会員。個人や合同写真展を開き活躍中だ。「二十日会」では写真家で、やさしい森岡さんにお会いできる。

宮田 貞夫



編集後記

中田小学校で 9 月 5 日に開催された「ながだフェスティバル」に参加したことを藤岡謙二区長が「区長メッセージ」に書いています。体育館での「横浜中田ジュニアマーチングバンド」などの演奏の感想とともに、「また、中田地区で取り組んでいる「サーキュラー・イエロー・プロジェクト」に参加している中田小学校 6 年 2 組のコーナーでは、区内の休耕地を活用して採れた菜種を絞り、菜種油を作る体験ができました」と記し、子どもたちの取り組みに注目してくれました。区のホームページで、このメッセージをぜひ読んでください。

鈴木 賀津彦

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之